



## Red Hat Insights 1-latest

# Red Hat Insights Task を使用したシステムの問題の 評価および修復

事前定義された Insights Task Playbook を使用してシステムの問題を解決する



# Red Hat Insights 1-latest Red Hat Insights Task を使用したシステムの問題の評価および修復

---

事前定義された Insights Task Playbook を使用してシステムの問題を解決する

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

Red Hat Insights Taskは、Task と呼ばれる事前定義された Playbook を使用してシステムの問題を評価し、修復するのに役立ちます。Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ をご覧ください。

---

## 目次

第1章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX タスクの概要 .....	3
1.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE の USER ACCESS 設定 .....	3
第2章 タスクの実行に向けた RED HAT INSIGHTS へのシステムの登録および接続 .....	6
第3章 RED HAT INSIGHTS を使用したタスクの実行 .....	7
第4章 CENTOS LINUX 7 から RHEL 7 への変換に役立つ INSIGHTS タスクの使用 .....	10
第5章 アップグレード前分析タスクによるシステムアップグレードの準備状況の評価 .....	11
5.1. 要件および前提条件 .....	11
5.2. アップグレード前分析タスクの実行 .....	11
5.3. アップグレード前分析タスクのレポートの確認 .....	13
5.4. アップグレードを妨げる問題に関する推奨事項の表示 .....	14
5.5. アップグレードを妨げる問題に関する推奨事項の修復 .....	14
第6章 INSIGHTS TASKS を使用したイメージモードの RHEL システムの更新 .....	19
6.1. INITIATE UPDATE FOR IMAGE MODE RHEL FOR RHEL HOST TASK の実行 .....	19
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ) .....	24



# 第1章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX タスクの概要

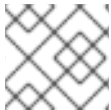
タスクは、Insights for Red Hat Enterprise Linuxの Automation Toolkit の一部です。タスクは、事前定義された Playbook を提供します。この Playbook は、自動化されたタスクにより複雑な問題を簡素化して解決することで、インフラストラクチャーの健全性を維持するのに役立ちます。Task は特定の問題を解決します。通常はシステムで1回実行され、システムの注目度の高い脆弱性の検出や、システムのメジャーアップグレードの準備などを実行します。タスクは、[Red Hat Hybrid Cloud Console > Red Hat Insights > RHEL > Automation Toolkit > Tasks](#) で確認できます。

Insights for Red Hat Enterprise Linux は、インフラストラクチャーで問題を解決して作業を行う必要性を予測し、特定のタスクを Automation Toolkit に継続的に追加します。Task には次のものが含まれます。

- RHEL アップグレード前分析ユーティリティータスク
- 変換前分析ユーティリティータスク
- CentOS Linux 7 から RHEL への変換

タスクの実行を開始するにあたって必要となる重要な情報は次のとおりです。

- [User Access に関する考慮事項](#)。タスクを完了するために必要なロールまたはユーザーアクセスのレベルを確認します。
- [Insights へのホストの登録および接続](#)。タスクを使用するには、システムを Insights に登録して接続する必要があります。
- [Red Hat Insights を使用したタスクの実行](#)。タスクを見つけて実行する方法を確認します。



## 注記

タスクを実行するためのシステム要件は、タスクにより異なる場合があります。

## 1.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE の USER ACCESS 設定

User Access は、ロールベースのアクセス制御(RBAC)の Red Hat 実装です。組織管理者は、ユーザーアクセスを使用して、Red Hat Hybrid Cloud Console (コンソール) でユーザーが表示および実行できるユーザーを設定します。

- ユーザーに個別にパーミッションを割り当てる代わりに、ロールを整理することで、ユーザーアクセスを制御します。
- ロールおよびそれらの対応する権限を含むグループを作成します。
- このグループにユーザーを割り当てることで、グループのロールに関連付けられたパーミッションを継承できるようになります。

### 1.1.1. 事前定義されたユーザーアクセスグループおよびロール

グループとロールの管理を容易にするため、Red Hat は事前定義された2つのグループと事前定義されたロールのセットを提供しています。

#### 1.1.1.1. 事前定義されたグループ

**Default access グループ**には、組織内のすべてのユーザーが含まれます。事前定義されたロールの多くはこのグループに割り当てられます。これは Red Hat によって自動更新されます。



#### 注記

組織管理者が **Default access** グループに変更を加えると、その名前が **Custom default access** グループに変更され、Red Hat では更新されなくなります。

**Default admin access** グループには、組織管理者のパーミッションを持つユーザーのみが含まれます。このグループは自動的に維持され、このグループ内のユーザーとロールは変更できません。

Hybrid Cloud Console で、[Red Hat Hybrid Cloud Console > Settings アイコン\(⚙️\)> Identity & Access Management > User Access > Groups](#) に移動して、アカウントの現在のグループを表示します。このビューは、組織管理者に限定されます。

#### 1.1.1.2. グループに割り当てられた事前定義されたロール

**Default access** グループには、事前定義されたロールが多数含まれます。組織内の全ユーザーが **Default access** グループのメンバーであるため、そのグループに割り当てられたすべてのパーミッションは継承されます。

**Default admin access** グループには、更新および削除パーミッションを付与する多数の事前定義済みロールが含まれます（すべてではありません）。このグループのロールには、通常、名前に **administrator** が含まれます。

Hybrid Cloud Console で、[Red Hat Hybrid Cloud Console > Settings アイコン\(⚙️\)> Identity & Access Management > User Access > Roles](#) に移動して、アカウントの現在のロールを表示します。各ロールが割り当てられているグループの数を確認できます。このビューは、組織管理者に限定されます。

詳細は、[ロールベースアクセス制御\(RBAC\)のユーザーアクセス設定ガイド](#) を参照してください。

#### 1.1.2. アクセス権限

事前定義されたロールが持つ必要のあるパーミッションを提供する各手順一覧の **前提条件**。ユーザーとして、[Red Hat Hybrid Cloud Console > Settings アイコン\(⚙️\)> My User Access](#) に移動して、現在継承されているロールとアプリケーションパーミッションを表示できます。

Insights for Red Hat Enterprise Linux 機能にアクセスしようとしたときに、このアクションを実行する権限がないというメッセージが表示される場合は、追加の権限を取得する必要があります。組織管理者または組織の User Access administrator により、これらのパーミッションが設定されます。

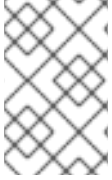
Red Hat Hybrid Cloud Console Virtual Assistant を使用して、Contact my Organization Administrator に問い合わせます。アシスタントは、お客様に代わって組織管理者にメールを送信します。

#### 1.1.3. Insights Task ユーザーの User Access ロール

次のロールにより、Insights for Red Hat Enterprise Linux の修復機能への拡張アクセスが有効になります。

- **Task 管理者**。Task 管理者ロールでは、Insights に接続されたシステムで Task をリモートで実行するための全 Task 機能へのアクセスが許可されます。





## 注記

Default Admin Access グループに属するすべてのメンバーも Task を実行できます。

Task ビューアーのロールは存在しません。

## 第2章 タスクの実行に向けた RED HAT INSIGHTS へのシステムの登録および接続

Red Hat Insights を使用するには、システムを Insights に登録し、Insights とのシステム通信を有効にする必要があります。Insights との通信に加えて、Satellite 6.11 以降、リモートホスト設定 (rhc)、**rhc-worker-playbook**、および **ansible** の依存関係の有効化およびインストールを行い、タスクサービスや Automation Toolkit のその他のサービスを使用できるようにする必要があります。

Insights とのシステム通信の有効化および依存関係の対処に関する詳細は、以下を参照してください。

- [Red Hat Insights 修復ガイド](#) の [Insights とのホスト通信の有効化](#)

### 関連情報

- [Red Hat Insights のデータとアプリケーションのセキュリティー](#)

## 第3章 RED HAT INSIGHTS を使用したタスクの実行

Red Hat Hybrid Cloud Console で、Red Hat Insights Tasks から直接リモートシステムに対してタスクを実行できます。

実行できる Task は次のとおりです。

- RHEL アップグレード前分析ユーティリティータスク
- 変換前分析ユーティリティータスク
- CentOS Linux 7 から RHEL への変換



### 注記

特定の Insights タスクの実行に必要な前提条件とアクションは、それぞれ異なります。

タスクを実行するための一般的な手順は次のとおりです。

### 前提条件

- Red Hat Hybrid Cloud Console にログインしている。
- **Tasks administrator** ロールを持つ User Access グループのメンバーである。
- システムを接続し、必要に応じてリモートホスト設定 (rhc)、**rhc-worker-playbook**、および **ansible-core** の依存関係に対処済みである。[Red Hat Insights 修復ガイドの Insights とのホスト通信の有効化](#) を参照してください。
- Satellite 6.11 以降の依存関係に対処済みである。[Red Hat Insights 修復ガイドの Insights とのホスト通信の有効化](#) を参照してください。  
Insights Automation Toolkit のサービスにも同様の依存関係要件があります。Red Hat Insights のユーザーが修復とタスク用の Playbook を実行できるようにするには、その要件を満たす必要があります。

### 手順

1. [Automation Toolkit > Tasks](#) に移動します。
2. 実行するタスクを選択し、**Run Task** をクリックします。
3. オプション: デフォルトのタスク名を編集して、必要に応じてカスタマイズします。



### 注記

タスクの実行後にタスク名を再度変更することはできません。

4. タスクの簡単な説明に示されるタスク固有の前提条件をメモします。
5. タスクを実行するシステムを選択します。フィルターを使用すると、以下の要素でシステムを検索およびフィルタリングできます。
  - 名前
  - オペレーティングシステム

- タグ

**RHEL pre-upgrade analysis utility**

**Task description**  
For connected systems running versions of RHEL 7 or RHEL 8, the RHEL pre-upgrade analysis will predict repository conflicts and application compatibility with future versions before you upgrade. Run this task to understand the impact of an upgrade on your fleet and make a remediation plan before your maintenance window begins.  
[Download preview of playbook](#)

**Task name**  
RHEL pre-upgrade analysis utility

**Systems to run tasks on**  
Eligible systems include systems connected to console.redhat.com with rhc, or Satellite with Cloud Connector.

1-10 of 255

Name	Tags	OS	Last seen
iqe-vm-lib-f3ca03d8-calc-4cf6-ad5f-daa9b74875d7	0	RHEL 8.7	Just now
iqe-vm-lib-d7dfcff-2604-4fd5-bfc5-53c3d07970a4	0	RHEL 8.7	2 minutes ago
iqe-vm-lib-ed9a5d99-54a2-4599-8b42-fad89fd8f24b	0	RHEL 8.7	3 minutes ago
iqe-jenkins-tasks-outage-prod	0	RHEL 8.7	18 minutes ago
iqe-prod-test-device-87-2	0	RHEL 8.7	18 minutes ago
test-image-rehana	0	RHEL 9.2	18 minutes ago
iqe-vm-lib-c9738e71-la78-4f4e-896f-3766e75efbf	0	RHEL 8.7	37 minutes ago
ci-vm-10-0-96-150.hosted.upshift.rdu2.redhat.com	0	RHEL 8.8	53 minutes ago

Execute task Cancel

6. **Execute task** をクリックします。選択したシステムでタスクが実行されます。タスクが実行中であることを示すポップアップが表示される場合があります。

**Task running**

Your task "RHEL pre-upgrade analysis utility" is running on 1 system.

[View progress](#)

7. **View Progress** をクリックするとタスクの詳細ページが表示され、選択した各システムでタスクがどのように実行されているかが表示されます。

Red Hat Hybrid Cloud Console

Services Search for services Preview off

Red Hat Insights > Automation Toolkit > Tasks

**RHEL pre-upgrade analysis utility** Run task again

RHEL pre-upgrade analysis utility

For connected systems running versions of RHEL 7 or RHEL 8, the RHEL pre-upgrade analysis will predict repository conflicts and application compatibility with future versions before you upgrade. Run this task to understand the impact of an upgrade on your fleet and make a remediation plan before your maintenance window begins.

Systems	Run start	Run end	Initiated by	Systems with alerts
1	22 Jan 2024, 20:23 UTC	22 Jan 2024, 20:23 UTC (0 min)	insights-qa	1

1-1 of 1

System name	Status	Message
iqe-jenkins-tasks-outage-prod	Failure	<b>Alert</b> Task failed to complete for an unknown reason. Retry this task at a later time.

Feedback

8. **Status** と **Message** の詳細を確認します。
9. システム名の横に **Show more** アイコンが表示されている場合、アイコンをクリックするとメッセージに関する詳細情報が表示されます。

10. **Tasks** をクリックしてタスク詳細ビューに移動すると、選択したシステムでタスクがどのように実行されたかに関する詳細情報が表示されます。
11. **Activity tab** をクリックすると、実行したすべてのタスクのステータスが表示されます。Task は最新の日時に基づいて時系列で表示されます。



## 注記

**Completed** ステータスは、タスクが実行されたことを示しますが、タスクが目的を達成したことを示すものではありません。

Task	Systems	Status	Run date/time
RHEL pre-upgrade analysis utility	1	Completed	22 Jan 2024, 20:23 UTC
RHEL pre-upgrade analysis utility	1	Completed	22 Jan 2024, 18:29 UTC
Pre-conversion analysis for converting to RHEL	1	Completed	22 Jan 2024, 17:06 UTC

12. オプション: 実行したタスクをクリックすると、タスク詳細ビューに戻り、選択したシステムでタスクがどのように実行されたかに関する詳細情報が表示されます。

## 次のステップ

エラーを解決することが必要な場合があります。エラーには、タスクを正常に実行するために、ソフトウェアパッケージをシステムにインストールする必要がある場合に発生するものなどがあります。これらのエラーを解決したら、同じシステムでタスクを再度実行できます。

オプション: タスクを再度実行するには、**Run Task again** をクリックします。以前に選択したシステムは引き続き選択されますが、必要に応じてシステムを追加することもできます。

## 第4章 CENTOS LINUX 7 から RHEL 7 への変換に役立つ INSIGHTS タスクの使用

Red Hat Insights を使用すると、CentOS Linux 7 から RHEL 7 への変換に役立ちます。

システムの変換に役立つ Insights タスクの使用に関する詳細は、[RPM ベースの Linux ディストリビューションから RHEL への変換ドキュメント](#) の [Insights を使用した変換](#) を参照してください。

### 関連情報

- [ビデオ: Pre-conversion analysis for converting to Red Hat Enterprise Linux](#)
- [ビデオ: Convert to Red Hat Enterprise Linux from CentOS7 Linux using Red Hat Insights](#)

### 変換関連の Insights タスクのトラブルシューティング

Task は、Insights を使用する Red Hat Enterprise Linux インフラストラクチャーを更新、管理、または保護するのに役立ちます。各タスクは、タスクを最初から最後まで実行する事前定義された Playbook です。変換関連の Insights タスクの完了に問題がある場合は、以下を参照してください。

- [Red Hat Insights を使用した変換に関する問題のトラブルシューティング](#)

## 第5章 アップグレード前分析タスクによるシステムアップグレードの準備状況の評価

このタスクは、Leapp ツールを使用した Red Hat Enterprise Linux のインプレースアップグレード機能の一部を成しています。Leapp ツールの詳細と、このツールを使用したアップグレードの準備状況を手動で確認する方法については、[RHEL 8 から RHEL 9 へのアップグレード](#)、[Red Hat Enterprise Linux 8 から Red Hat Enterprise Linux 9 へのインプレースアップグレードの手順](#) を参照してください。

アップグレード前分析タスクは、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8 から RHEL 9 にアップグレードするシステムの準備状況を確認します。Insights がアップグレードを妨げる問題を検出した場合、Red Hat Hybrid Cloud Console (コンソール) の Insights for Red Hat Enterprise Linux で、問題の詳細情報 (解決手順を含む) を確認できます。

アップグレード前分析タスクは、リモートホスト設定 (rhc) ソリューションを使用して Red Hat Insights に接続されている任意の RHEL 8 システムで実行できます。システムが Insights に接続されていることは、コンソールの [Insights システムインベントリー](#) でシステムを見つけることにより確認できます。システムがインベントリーにない場合に、システムを Insights に接続する方法については、[リモートホストの設定および管理](#) ドキュメントを参照してください。

システム上で Leapp ユーティリティーを手動で実行することもできます。Insights に接続されたシステムのアーカイブに Leapp レポートがある場合、ユーティリティーが手動で実行されたか Insights タスクとして実行されたかに関係なく、Insights でレポートの結果を確認できます。

### 5.1. 要件および前提条件

アップグレード前分析タスクには、次の要件と前提条件が適用されます。

- このガイドでは、Red Hat Insights を使用してアップグレード関連のアクションを実行する前に、[インプレースアップグレードのドキュメント](#) を読んで理解していることを前提としています。
- システムがインプレースアップグレードに対応している必要があります。システム要件と制限については、[インプレースアップグレードのドキュメント](#) を参照してください。
- Insights for Red Hat Enterprise Linux の UI から Insights タスクやその他の修復 Playbook を実行するには、リモートホスト設定ソリューションを使用して RHEL システムを Red Hat Insights に接続する必要があります。
  - 詳細は、[リモートホストの設定および管理](#) ドキュメントを参照してください。
- User Access で付与された **Tasks administrator** 権限を使用して [console.redhat.com](#) にログインしている必要があります。



#### 注記

デフォルトの管理者アクセスグループのすべてのメンバーには、**Tasks administrator** アクセス権があります。このロールを持つ User Access グループのメンバーでない場合、Tasks ページにタスクが表示されません。Insights 機能へのアクセス拡大を要求する方法など、User Access の詳細は、[ロールベースアクセス制御 \(RBAC\) のユーザーアクセス設定ガイド](#) を参照してください。

### 5.2. アップグレード前分析タスクの実行

RHEL 8 から RHEL 9 へのアップグレードに向けた RHEL システムの準備状況を分析するには、次の手順に従います。

## 前提条件

- 前提条件については、この章の「要件および前提条件」セクションに記載されています。

## 手順

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console > Red Hat Insights > RHEL > Automation Toolkit > Tasks](#) に移動します。
2. **Pre-upgrade analysis for in-place upgrade from RHEL 8**を見つけます。



### 注記

ページにタスクが表示されない場合は、適切な User Access がない可能性があります。詳細は、[ロールベースのアクセス制御 \(RBAC\) のユーザーアクセス設定ガイド](#)を参照してください。

3. **オプション: Download preview of playbook**をクリックすると、アップグレード前分析ユーティリティの詳細を表示できます。
4. **Run task** をクリックします。
5. **Pre-upgrade analysis for in-place upgrade from RHEL 8**ポップアップで、各システムの横にあるボックスをオンにして、アップグレード前分析を実行するシステムを選択します。



### 注記

デフォルトでは、システムのリストがフィルタリングされ、タスクの実行に対応したシステムのみが表示されます。フィルターを変更または追加することで、イベントリーに含めるシステムのパラメーターを拡張できます。

6. **Execute task** クリックし、選択したシステムでタスクを実行します。

## 検証

タスクが正常に実行されたことを確認するには、次の手順に従います。

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console > Red Hat Insights > RHEL > Automation Toolkit > Tasks](#) ページに移動し、**Activity** タブをクリックします。ここでタスクのステータス (進行中か完了か) を確認できます。
2. 実行日時に基づいてタスクを見つけます。タスクが完了したか失敗したかを確認できます。



## Tasks ⓘ

Available Activity

Task	Systems	Status	Run date/time
Pre-upgrade analysis for in-place upgrade from RHEL 8	26	Completed	12 Mar 2024, 14:50 UTC
Pre-upgrade analysis for in-place upgrade from RHEL 8	1	Completed	08 Mar 2024, 17:22 UTC
Convert to RHEL from CentOS Linux 7	2	Completed	29 Jan 2024, 18:18 UTC
Pre-conversion analysis for converting to RHEL	2	Completed	29 Jan 2024, 17:50 UTC

### 5.3. アップグレード前分析タスクのレポートの確認

システムでアップグレード前分析タスクを実行した後、各システムの具体的な詳細と、アップグレードを妨げる問題に関する推奨事項を確認できます。

#### 前提条件

- 前提条件については、この章の「要件および前提条件」セクションに記載されています。

#### 手順

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console > Red Hat Insights > RHEL > Automation Toolkit > Tasks](#) に移動して、**Activity** タブをクリックします。
2. タスク名をクリックし、タスクの結果を表示します。正しいレポートを選択できるように、実行日時をメモします。
3. システム名の横にあるチャレットをクリックし、そのシステムのアラートのリストを表示します。

ip-172-31-28-143.eu-central-1.compute.internal Success Your system has 0 inhibitors out of 9 potential problems.

- Remote root logins globally allowed using password
- GRUB core will be updated during upgrade
- Usage of deprecated Model "RequiredTargetUserspacePackages" at /etc/leapp/repos.d/system\_upgrade/common/actors/cloud/checkrhui/actor.py:123
- SELinux will be set to permissive mode
- The subscription-manager release is going to be kept as it is during the upgrade
- Excluded target system repositories
- The upgrade will prepend the Include directive to OpenSSH sshd\_config
- SELinux relabeling will be scheduled
- Release version in /etc/dnf/vars/releasever will be set to the current target release

4. 白い感嘆符を含む赤い円と赤いアラートテキストが表示されているアラートの横にあるチャレットをクリックし、アップグレードを妨げているアラートに関する情報を表示します。



#### 注記

障害アラートに加えて、修復しなくてもアップグレードを続行できる重大度の低いアラートや情報アラートも表示される場合があります。

5. レポートをよく確認します。一部の推奨事項は情報提供のみを目的としたものですが、エラー

や警告が発生した場合は対処することが重要です。このような問題が発生した場合は、システム上で問題に対処し、アップグレード前のタスクを再実行して、修復作業の効果を評価します。



### 注記

一部のエラーは正規の障害要因として分類されています。このようなエラーを修復するまで、アップグレードを続行することはできません。

## 5.4. アップグレードを妨げる問題に関する推奨事項の表示

アップグレード前分析タスクを実行するか、個々のシステムで Leapp ツールを手動で実行すると、インフラストラクチャー内のアップグレードを妨げる問題に関する推奨事項のリストを表示できます。

アップグレード前の推奨事項のリストを使用すると、各推奨事項に関する次の情報を表示できます。

- 推奨事項の詳細
- 該当するシステムの情報
- 総合的なリスクと影響に関する詳細情報
- 解決アクション実行中のシステム可用性に対するリスク

### 前提条件

- デフォルトのアクセス権 (すべてのユーザーのデフォルト) を持つユーザーであれば、インプレースアップグレードの推奨事項のリストを表示できます。

### 手順

1. [Red Hat Insights > Operations > Advisor > Topics > In-place upgrade](#) に移動し、インプレースアップグレードの成功に影響する推奨事項を表示します。



### 注記

現在、インプレースアップグレードの推奨事項リストには、Insights によってアップグレードの障害要因として特定された推奨事項のみが表示されます。非障害要因を含むすべてのインプレースアップグレードの推奨事項は、実行された各タスクの詳細ビューで確認できます。

## 5.5. アップグレードを妨げる問題に関する推奨事項の修復

インプレースアップグレードの推奨事項リストは、インフラストラクチャー内のシステムでアップグレードを妨げる問題の修復するための土台として使用できます。

一部の推奨事項には、Insights for Red Hat Enterprise Linux UI からの直接修復の実行を自動化するための Playbook があります。ただし、推奨事項によっては手動での解決が必要です。その手順は、システムと推奨事項のペアに合わせてカスタマイズされ、推奨事項とともに提供されます。推奨事項のリストの Remediation 列を確認すると、どの推奨事項で Playbook が利用可能かがわかります。

Insights の修復の詳細は、[Red Hat Insights 修復ガイド](#) を参照してください。

### 5.5.1. Insights の修復 Playbook を使用して RHEL のアップグレードを妨げる問題に関する推奨事項を解決する

Insights で作成した Ansible Playbook を使用して、アップグレードを妨げる問題に関する推奨事項の修復を自動化できます。次の手順を使用して、阻害要因を特定し、推奨事項と修復するシステムを選択します。

#### 前提条件

- 前提条件については、この章の「要件および前提条件」セクションに記載されています。

#### 手順

1. [Red Hat Insights > Operations > Advisor > Topics > In-place upgrade](#) に移動し、インプレースアップグレードの成功に影響する推奨事項を表示します。
2. **Remediation** タブで "Playbook" という単語を含む推奨事項を選択します。これは、問題で Playbook が利用可能であることを示しています。

[Topics](#) > [In-place upgrade](#)

#### In-place upgrade ★ Featured

Follow these recommendations to address inhibitors produced during the in-place upgrade process.

#### Recommendations

>  Filter by name   1 - 7 of 7 < >

Systems impacted 1 or more  Status Enabled  [Reset filters](#)

Name	Modified	Category	Total risk	Systems	Remediation
> <a href="#">Minimum memory requirements for target RHEL system are not met</a>	9 months ago	<a href="#">Availability</a>	Moderate	2	Manual
> <a href="#">Missing required answers in the answer file</a>	9 months ago	<a href="#">Availability</a>	Moderate	1	Manual
> <a href="#">Newest installed kernel not in use</a>	9 months ago	<a href="#">Availability</a>	Moderate	1	<b>Playbook</b>
> <a href="#">Possible problems with remote login using root account</a>	9 months ago	<a href="#">Availability</a>	Moderate	1	Manual
> <a href="#">The installed OS version is not supported for the in-place upgrade to the target RHEL version</a>	9 months ago	<a href="#">Availability</a>	Moderate	1	Manual
> <a href="#">RHEL 7 system is eligible for an in-place upgrade to RHEL 8 using the Leapp utility</a>	8 months ago	<a href="#">Performance</a>	Low	2	Manual
> <a href="#">RHEL 8 system is eligible for an in-place upgrade to RHEL 9 leveraging the already installed Leapp utility</a>	7 months ago	<a href="#">Performance</a>	Low	4	Manual

3. **Playbook が利用可能** な推奨事項ごとに、次のアクションを実行します。
  - a. 推奨事項をクリックし、該当するシステムなど、問題に関する詳細情報を表示します。
  - b. Playbook に追加する各システムの横にあるボックスをオンにして、**Remediate** をクリックします。

Recommendations &gt; Newest installed kernel not in use

**Newest installed kernel not in use**Modified date: 19 Jun 2023 [Availability](#)

Newest installed kernel not in use

To ensure a stable upgrade, the machine needs to be booted into the latest installed kernel. Boot into the most up-to-date kernel installed on the machine before running `leapp` again.

**Topics related to this recommendation**[In-place upgrade](#)

Is this recommendation helpful?

**Total risk**

Moderate

**Risk of change**

Moderate

The risk of change is moderate, because the change will likely require an outage window.

System reboot is required.

**1 Total Systems**

Conventional (RPM-DNF) Immutable (OSTree)

Name ↓	Group ↑	Tags	OS ↑	Last seen ↓	First Impacted ↑
dur-rhc01.hcc-lab.com	No group	0	RHEL 8.8	1 hour ago	12 days ago

- ポップアップで、**Create a new playbook**を選択し、Playbook の名前を入力して、**Next** をクリックします。
- オプション**: または、選択したシステムの解決策を既存の Playbook に追加することもできます。
- 対象となるシステムを確認し、**Next** をクリックします。
- 対象となる推奨事項を確認します。推奨事項の名前の横にあるキャレットをクリックし、対象となるシステムを表示します。

**重要**

解決策によっては、システムの再起動が必要になります。デフォルトでは自動再起動が有効になっていませんが、推奨事項のリストの上にある **Turn on autoreboot** をクリックして有効にできます。

- Submit** をクリックします。最後のポップアップビューで、Playbook が正常に作成されたことを確認します。アプリケーションに戻るか、Playbook を開くかを選択できます。
- [Automation Toolkit > Remediations](#) で Playbook を見つけ、それをクリックして開きます。
  - Playbook にはアクションのリストが含まれています。各アクションの横にあるボックスをチェックして、実行するアクションを選択します。
  - Execute playbook** クリックし、指定したシステムで Playbook を実行します。
  - ポップアップで、**Execute playbook on systems** ボタンをクリックします。Playbook がそのシステムで実行されます。

**5.5.2. RHEL のアップグレードを妨げる問題に関する推奨事項を手動で修復する**

該当するシステムに解決手順を手動で適用することで、アップグレードを妨げる問題に関する推奨事項を修復できます。次の手順は、システムと推奨事項のペアに合わせた解決手順を見つける方法を示しています。

**前提条件**

- 前提条件については、この章の「要件および前提条件」セクションに記載されています。

## 手順

1. [Red Hat Insights > Operations > Advisor > Topics > In-place upgrade](#) に移動し、インプレースアップグレードの成功に影響する推奨事項を表示します。
2. **\*Remediation** タブで "Manual" という単語を含む推奨事項を選択します。これは、問題を手動で修復する必要があることを示しています。

Topics > In-place upgrade

### In-place upgrade ★ Featured

Follow these recommendations to address inhibitors produced during the in-place upgrade process.

Recommendations						
Name	Modified	Category	Total risk	Systems	Remediation	
> Minimum memory requirements for target RHEL system are not met	9 months ago	Availability	Moderate	2	Manual	⋮
> Missing required answers in the answer file	9 months ago	Availability	Moderate	1	Manual	⋮
> Newest installed kernel not in use	9 months ago	Availability	Moderate	1	Playbook	⋮
> Possible problems with remote login using root account	9 months ago	Availability	Moderate	1	Manual	⋮
> The installed OS version is not supported for the in-place upgrade to the target RHEL version	9 months ago	Availability	Moderate	1	Manual	⋮
> RHEL 7 system is eligible for an in-place upgrade to RHEL 8 using the Leapp utility	8 months ago	Performance	Low	2	Manual	⋮
> RHEL 8 system is eligible for an in-place upgrade to RHEL 9 leveraging the already installed Leapp utility	7 months ago	Performance	Low	5	Manual	⋮

3. 手動修復が必要な推奨事項ごとに、次のアクションを実行します。

- a. 推奨事項をクリックし、推奨事項の詳細ページを開きます。該当するシステムが表示されます。

Recommendations > RHEL 8 system is eligible for an in-place upgrade to RHEL 9 leveraging the already installed Leapp utility

#### RHEL 8 system is eligible for an in-place upgrade to RHEL 9 leveraging the already installed Leapp utility

Modified date: 11 Aug 2023 [Performance](#)

Red Hat provides [Leapp utility](#) to support upgrade from RHEL 8 to RHEL 9. The current RHEL 8 version is eligible for upgrade to RHEL 9 via Leapp utility.

Run [RHEL preupgrade analysis utility](#) in *Automation Toolkit* -> *Tasks* service to understand the impact of an upgrade on your fleet and make a remediation plan before your maintenance window begins.

[Knowledgebase article](#)

Topics related to this recommendation  
In-place upgrade

Is this recommendation helpful? [👍](#) [👎](#)

#### Total risk

Low

Low likelihood  
Low impact

#### Risk of change

Moderate

The risk of change is moderate, because the change will likely require an outage window.

System reboot is required.

5 Total Systems						
Conventional (RPM-DNF)		Immutable (OSTree)				
Name	Group	Tags	OS	Last seen	First Impacted	
<input type="checkbox"/> <a href="#">dur-postgres01</a>	No group	2	RHEL 8.9	12 minutes ago	6 days ago	⋮
<input type="checkbox"/> <a href="#">ip-172-31-89-119.ec2.internal</a>	postgres	2	RHEL 8.9	14 minutes ago	6 days ago	⋮
<input type="checkbox"/> <a href="#">dur-rhc10.hcc-lab.com</a>	No group	0	RHEL 8.6	3 hours ago	5 months ago	⋮
<input type="checkbox"/> <a href="#">dur-rhc07.hcc-lab.com</a>	No group	0	RHEL 8.6	4 hours ago	5 months ago	⋮
<input type="checkbox"/> <a href="#">dur-rhc08.hcc-lab.com</a>	No group	1	RHEL 8.6	5 hours ago	8 months ago	⋮

- b. システム名をクリックします。

- c. 手動で解決する推奨事項を選択し、キャレットをクリックして、システム上で推奨事項を解決するための手順 (**Steps to resolve**) を表示します。

- d. システム上で解決手順を実行します。
- e. 該当するシステムごとに、ステップ b、c、および d を繰り返します。

## 第6章 INSIGHTS TASKS を使用したイメージモードの RHEL システムの更新

RHEL のイメージモードを使用してシステムを構築する間、システムを Red Hat Insights に接続できます。接続したら、Red Hat Insights タスクを使用し、**イメージモードの RHEL ホストの更新を開始**し、Insights に接続されたシステムを RHEL の最新バージョンに更新します。Red Hat Enterprise Linux バージョン 9.4 以降には、RHEL のイメージモードが含まれています。



### 注記

RHEL のイメージモードでは、**update** と **upgrade** の相互に置き換え可能な用語を使用します。

### 関連情報

- [RHEL のイメージモードを使用した、Red Hat Enterprise Linux 9 のオペレーティングシステムの構築、デプロイ、および管理](#)を行います。

## 6.1. INITIATE UPDATE FOR IMAGE MODE RHEL FOR RHEL HOST TASK の実行

Insights タスクを使用して、イメージモードの RHEL システムのアップグレードを開始できます。更新する **イメージモードの RHEL システムが多数ある場合は、RHEL ホストタスクの Initiate Update for image mode** を実行することができます。または、自動アップグレードオプションを使用してシステムを更新しないようにする場合は、タスクを実行できます。

このタスクを実行すると以下を行います。

- 新しいコンテナイメージのコンテナリポジトリを確認します。
- イメージをダウンロードし、次の起動時に使用するコンテンツを抽出します。
- 更新されたコンテンツが利用可能な場合は、ホストを再起動して新規イメージコンテンツをプルします。
- イメージが更新されたかどうかの結果を提供します。



### 注記

RHEL 更新のイメージモードは、**bootc update** と呼ばれることもあります。



### 重要

RHEL のイメージモードはテクノロジープレビュー機能としてのみご利用いただけます。テクノロジープレビュー機能は、Red Hat 製品サポートのサービスレベルアグリーメント (SLA) の対象外であり、機能的に完全ではない場合があります。Red Hat は、実稼働環境でこれらを使用することを推奨していません。テクノロジープレビュー機能は、最新の製品機能をいち早く提供して、開発段階で機能のテストを行いフィードバックを提供していただくことを目的としています。

Red Hat のテクノロジープレビュー機能のサポート範囲に関する詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#)を参照してください。



## 前提条件


- Red Hat Hybrid Cloud Console にログインしている。
- **Tasks 管理者** ロールを持つユーザーアクセスグループのメンバーである。
- Insights に接続されたシステムがあり、次のいずれかの依存関係に対応している。
  - リモートホスト設定(RHC)、**rhc-worker-playbook**、および **ansible-core**
  - Satellite 6.11+ [Red Hat Insights 修復ガイド](#) の [Insights とのホスト通信の有効化](#) を参照してください。
- **bootc** Image Builder を使用してイメージモードの RHEL システムをビルドし、それらのシステムを特定することができます。(Red Hat Enterprise Linux 9.4 以降で RHEL ブート可能なコンテナイメージを使用する RHEL のイメージモードの詳細は、[Using image mode for RHEL to build, deploy, manage オペレーティングシステム Red Hat Enterprise Linux 9](#))を参照してください。

## 手順

1. [Automation Toolkit > Tasks](#) に移動し、必要に応じて Red Hat Hybrid Cloud Console にログインします。**Available** タブ (デフォルトビュー) には、実行できるタスクの一覧が表示されます。**Activity** タブをクリックして、アカウントで実行されるすべてのタスクの履歴を表示します。
2. **RHEL ホストタスクの Initiate Update for image mode**を見つけます。

▼ **Initiate update of image mode for RHEL host**

Use this Insights task to initiate an update of your image mode hosts. Hosts will check their container repository for a new container image, upgrade themselves to that image, and perform the bootc upgrade function to convert the bootc image into an updated RHEL operating system. Once updated, you will be able to view the new image associated with your hosts in Insights inventory.

[Download preview of playbook](#) 

[Select systems](#)

3. **Select systems** をクリックします。
4. タスクを実行するシステムを選択します。フィルターを使用して、**Name**、**Operating System**、**Group**、**Tags**、および **Task Eligibility** でシステムを検索およびフィルタリングできます (デフォルトのフィルターには、RHC 経由で登録されたシステムが表示されます)。



### 注記

フィルターは、RHEL (または **bootc**) システムのイメージモードにはフィルタリングされません。9.4 以降を実行しているシステムをフィルタリングして、タスクを実行するシステムのより良いリストを作成できます。必要に応じて、システム名をクリックして、**bootc** 情報を含むシステムファクトがあるかどうかを確認します。

この例では、システムが1つ選択されます。



### Initiate update of image mode for RHEL host ×

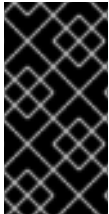
**Only eligible systems are shown**  
Eligible systems for this task include RHEL systems that are registered via RHC

Systems to run tasks on

1 selected Task Eligibility Filter Eligible Systeme... 1 - 10 of 24

Task eligibility Eligible Systems Reset filters

Name	Eligibility	Group	Tags	OS	Last seen
<input type="checkbox"/> rhel8-vm	Eligible	No group	0	RHEL 8.8	28 minutes ago
<input type="checkbox"/> ip-10-31-62-205.us-east-1.aws.redhat.com	Eligible	No group	0	RHEL 7.9	2 hours ago
<input type="checkbox"/> mhuth-laptop	Eligible	No group	0	RHEL 9.4	6 hours ago
<input checked="" type="checkbox"/> ci-vm-10-0-138-95.hosted.upshift.rdu2.redhat.com	Eligible	No group	0	RHEL 9.4	11 hours ago



### 重要

次の手順を実行すると、選択したシステムが再起動されます。さらに、システムを以前の状態にロールバックする必要がある場合は、[第 5 章 Managing RHEL boot images Red Hat Enterprise Linux 9 in Using image mode for RHEL to build, deploy, manage operating system.](#)

1. **Run Task** をクリックします。ポップアップにより、タスクが実行中であることが通知されま

## Initiate update of image mode for RHEL host

**Only eligible systems are shown**

Eligible systems for this task include RHEL systems that are registered via RHC

## Systems to run tasks on

1 selected Task Eligibility Filter Eligible Systeme... 1 - 10 of 24

Task eligibility Eligible Systems x Reset filters

Name	Eligibility	Group	Tags	OS	Last seen
<input type="checkbox"/> rhel8-vm	Eligible	No group	0	RHEL 8.8	28 minutes ago
<input type="checkbox"/> ip-10-31-62-205.us-east-1.aws.redhat.com	Eligible	No group	0	RHEL 7.9	2 hours ago
<input type="checkbox"/> mhuth-laptop	Eligible	No group	0	RHEL 9.4	6 hours ago
<input checked="" type="checkbox"/> ci-vm-10-0-138-95.hosted.upshift.rdu2.redhat.com	Eligible	No group	0	RHEL 9.4	11 hours ago
<input type="checkbox"/> iqe-jenkins-tasks-rhel-89-stage-proxy	Eligible	No group	0	RHEL 8.9	11 hours ago
<input type="checkbox"/> ci-vm-10-0-133-82.hosted.upshift.rdu2.redhat.com	Eligible	No group	0	RHEL 9.4	17 hours ago
<input type="checkbox"/> iqe-vm-lib-b5a3lac8-9fc1-4bf5-8766-97da748a7264	Eligible	No group	0	RHEL 8.7	17 hours ago
<input type="checkbox"/> ci-vm-10-0-133-110.hosted.upshift.rdu2.redhat.com	Eligible	No group	0	RHEL 9.4	17 hours ago
<input type="checkbox"/> iqe-vm-lib-fd1bd8db-2298-4f73-a517-104505c48966	Eligible	No group	0	RHEL 8.7	17 hours ago
<input type="checkbox"/> iqe-vm-lib-9713560d-0e2d-4f01-8786-bda76822cb82	Eligible	No group	0	RHEL 8.7	2 days ago

1 - 10 of 24 items 1 of 3

Run task Cancel

2. **Activity** ページの **Status** フィールドおよび **Message** フィールドで情報を確認します。この例では、メッセージは **Bootc upgrade complete** です。詳細について、確認してください。

Filter by tags

Tasks > Initiate update of image mode for RHEL host

**Initiate update of image mode for RHEL host**

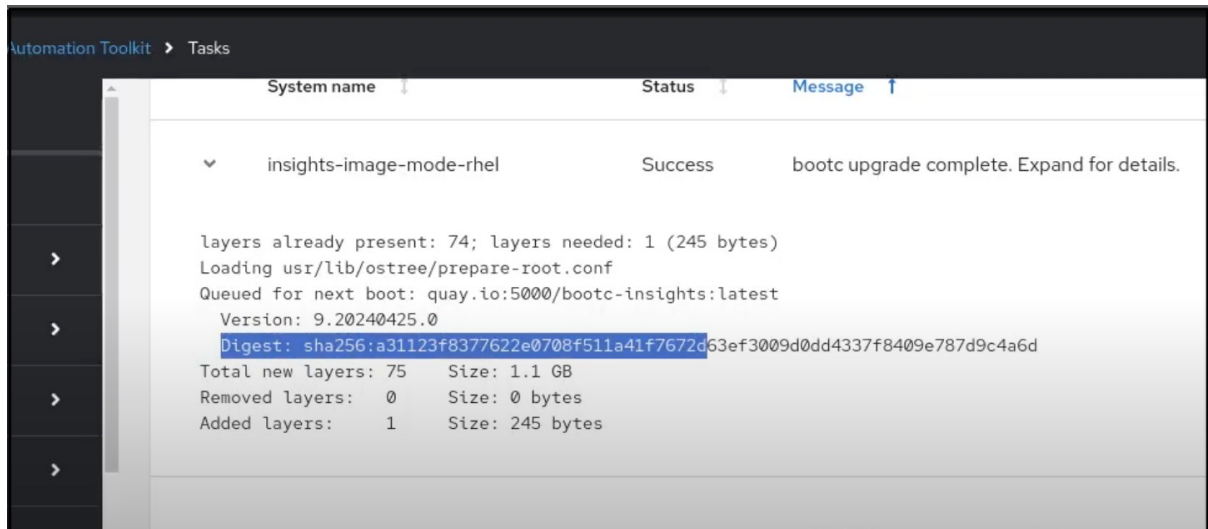
Use this Insights task to initiate an update of your image mode hosts. Hosts will check their container repository for a new container image, upgrade themselves to that image, and perform the bootc upgrade function to convert the bootc image into an updated RHEL operating system. Once updated, you will be able to view the new image associated with your hosts in Insights inventory.

Systems	Run start	Run end	Initiated by	Systems with alerts
1	10 Jun 2024, 21:29 UTC	10 Jun 2024, 21:30 UTC (1 min)	insights-qa	-

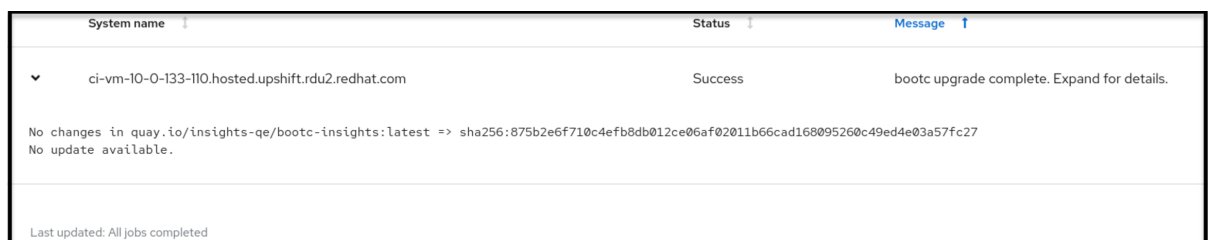
Filter by name

System name	Status	Message
ci-vm-10-0-133-110.hosted.upshift.rdu2.redhat.com	Success	bootc upgrade complete. Expand for details.

3. システム名の横にあるドロップダウン矢印をクリックして、タスクの詳細を取得します。イメージハッシュなど、タスクの結果についての詳細が表示されます。



システムがすでに最新であるため、タスクを実行すると更新されない可能性があります。



## トラブルシューティング

タスクの問題を解決するには、他のタスクのドキュメントで一般的な問題への回答を見つけることができます。Red Hat Insights タスクは、サービス内のツール、言語、およびリソースの共通のフレームワークを使用します。このタスクを完了できない場合は、

- タスクを再度実行してみてください。
  - タスクに失敗した場合は、Task details ページに移動し、**Run task** を再度 クリックします。
- [Red Hat Insights 変換に関する問題のトラブルシューティング](#) を確認し、同様のエラーメッセージが含まれる問題を解決する方法に関する情報を確認してください。

## RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するフィードバックをお寄せください。いただいたご要望に迅速に対応できるよう、できるだけ詳細にご記入ください。

### 前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。

### 手順

フィードバックを送信するには、以下の手順を実施します。

1. [Create Issue](#) にアクセスします。
2. **Summary** テキストボックスに、問題または機能拡張に関する説明を入力します。
3. **Description** テキストボックスに、問題または機能拡張のご要望に関する詳細を入力します。
4. **Reporter** テキストボックスに、お客様のお名前を入力します。
5. **Create** ボタンをクリックします。

これによりドキュメントに関するチケットが作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。フィードバックをご提供いただきありがとうございました。